えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報　第99号	２００９年１０月２３日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠

１．活動報告（　事務局　記）

－１０月１日（木）ビオトープ臨時総会決議提出事項の宇部市側の考え方聴集、久保田宇部市長、環境部長、同次長、笹尾課長、当会から今井会長、原田事務局長出席

－１０月４日（日）地元の行事が多いので活動は中止

－１０月５日（月）稲刈り準備　田んぼの排水乾燥開始、よけじの溝上げを実施、
１５日には足竹、冠竹を製作、運搬　　原田宗会員、吉富匡会員、内藤会員、藤村会員、原田事務局長

－１０月７日（水）宇部市の環境共生課の２名の方と今後の借地の取扱いについて協議しました。会からは、今井会長、原田・田村副会長、原田事務局長、西原会員が参加しました。

－１０月１５日（木）午前に観察隊の森の探険のために、昭和山遊ロードの草刈りと危ない生き物の確認と木の実・キノコの状況確認をしてきました。天堤付近にスズメバチが１匹いました。アケビはほとんどが実を開いていました。ヤマグリやドングリはたくさんありました。参加者は、原田事務局長、吉富匡一郎会員、西原会員でした。

－１０月１７日（土）午前は天候も味方して稲刈り、ハゼかけに最高の活動日でした。二俣瀬小学校　校長先生、教頭先生、ほか先生一名と生徒７名、親御さん３名と里山自然観察隊隊員１６名、保護者１４名、他自由参加者２名、会員２８名で総計７３名でした。
例年の団子しし汁をハゼかけ後賞味しました。稲の収穫は今一歩というところですが、無農薬、有機肥料にて出来上がったもち米は最高の餅になると確信いたします。

午後は「里山自然観察隊」で、秋の野草、キノコ、木の実を探索したり、樹木の名札も取り付け知識を深めました。隊員１６名、保護者会員１２名、スタッフ会員１２名にて秋の昭和山遊ロードから須賀河内川一帯を探索し、キノコ、山栗、アケビ、野ブドウ、グミの実等を採取、吾亦紅、センブリ、りんどう等秋の花を鑑賞しながら散策いたしました。

その他　毎週土、日に、タテバチドメグサの間引を前田歳朗エコアップリーダが活動されています。

２．今後の予定（　事務局　記）

◎　見学者
予定はありません

◎　行事
－１０月２７日（火）稲の脱穀予定　　－２８日一臼挽き予定　（天気により変更もありうる）
－１１月１日（日）　宇部まつりですが、維持活動の予定
－１１月２１日（土）維持活動

３．来訪者の声（　東屋のノートより一部抜粋　）

－９月１日－自然がいっぱいでステキ、故郷に帰ったようで、なつかしい風景です。カワセミに遭えるかと楽しみに来ました。　　防府市　岡本　（記載漏れでした）

－９月２７日－今日は朝からビオトープ二俣瀬に来ました。涼しくて気持ちがよかったです水車はきれいだね　　たか・とも　？

４．会員の声

新入会員　（土井　敬予　記）

広島にいってしまった吉﨑さんの後釜(?)でビオトープに入会して５ヶ月たちました。なかなか参加できず、吉﨑さんのようにあまり戦力にはなれませんが、よろしくお願いします♪　また、来年１月に結婚が決まり、忙しくなりそうです･･･

『「ビオトープ」は、本来その地域に住むさまざまな野生の生物が生きることのできる空間のことで、広義には、自然再生のためにつくられる水辺や公園なども含まれる。』とｅｃｏ検定公式テキストに載っています。ビオトープを維持し、今の世代がその子どもたちに自然とかかわる機会や時間をこれからもつくっていきたいですね。

「つくる会」に参加して（松村　悠美　記）

「つくる会」に参加させて頂いてから、早いもので半年が経ちました。月１回しか参加できない月もあり、まだわからないことだらけです。しかしながら、エコアップや９月に開催された臨時総会に参加するなかで、「つくる会」設立の経緯や会員の方々のビオトープに対する想いを（少しですが）知ることができました。

ビオトープが現在のカタチに至るまでの１０年間、会員をはじめ、多くのボランティアの方々の地道な努力と支えがあったからこそ、このような『皆から愛されるビオトープ』ができたのだと感じます。また、私にとって「つくる会」は学術にとどまらず、「つくる会」の昔話や日常生活上の様々な情報を得ることができる場所であり、エコアップは心地よい疲労感をもたらすとともに日常のストレスを自然浄化してくれる貴重な時間です。

今後のハス掘りや餅つき、更に気の早い私は、来年は今年体験できなかったイナゴ捕りを！と季節毎の行事を楽しみにしています。

借地契約期限切れに伴うビオトープの存続問題は、県や市が絡む難しい協議となりそうですが、どういったカタチであっても生き続けて欲しいと願っています。

５．ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（　管　哲郎　記）

（１７）ノシメトンボ（アカネ属＝アカトンボ属）*Sympetrum infuscatam* (Selys)

翅の先端に黒褐色班があり腹部が丸みを帯びている大型のアカトンボ。日本全土に生息しますが、西南日本に住む固体はさらに大きいといわれています。翅の先端の黒褐色班は関東以北では薄くなる傾向にあるようです。

平地や丘陵地、山地での植生豊かな開放的な池や水田、溝などに生息し、６月頃より出現し１１月末頃まで見られます。羽化したトンボは一旦水辺を離れ、山中に姿を消しますが、９月頃より再び現れます。池の周りの樹木や農道、山林道沿いの枝先や道端の草むら、倒木、石の上などに止まります。

秋に東北地方を旅行した折、お寺の参道に設けられた手すりや電線に、１mおきにびっしりと本種がとまっていた光景は忘れられません、県内にはそれほど多くないようです。

本種も眉班を持っていますがマユタテアカネのように大きくありません、胸の模様を良く観察して見分けて下さい、成熟したオス（♂）の体は赤みが強くなり翅の先の黒褐色とあわせ、存在感のあるアカトンボです。

参考文献

日本産トンボ幼虫・成虫　検索図説　石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊著

成熟したメス（♀）

成熟したオス（♂）

交尾連結　上（♂）下（♀）

６．里山自然観察隊（森の探険、木の実・キノコ）隊員１４＋２名、保護者１２名、会員１２名

昭和山遊ロードを市民センターから登り、木の実（主にドングリを中心）とキノコを探して歩きました。昭和山から須賀河内川への下りでは、まだ開いていないアケビの実も沢山取ることができました。ワレモコウ、センブリ、リンドウ等の秋の野草の花も沢山見ることができました。須賀河内川沿いを少し登って、ビオトープへ引き返し、市民センターへ帰りました。今日の観察は

「ドングリ」アラカシ、コナラ、スダジイ、ヤマグリ

「木の実」カクレミノ、アカマツ、イシャシャキ、リョウブ、ハイノキ、モチノキ、ゴンズイ、アキグミ、エビヅル、ヤマブドウ、ヤマガキ、ガマズミ、ウツギ、アオダモ、ヤマニシキ、ネズミモチ、ヒムロ、ハゼノキ、ヒメヤシャブシ、オオバヤシャブシ

「その他」アケビ、ノイチゴ、クズ、サルトリイバラ

「キノコ」シメジのなかま、イグチのなかま、サルノコシカケのなかま、ホコリタケのなかま、ヒイロタケ

７．会よりの連絡事項　（　事務局より　）

臨時総会で決議された件について、ただいま宇部市にたいして交渉中です。県側も市側も両行政方針はＮＰＯ等の法人化が一番の解決策とのことで、つくる会の臨時総会決議とは現在物別れ中です。今、市の環境共生課の笹尾課長（会員）にて他の方案で「厚東川水系・・・・協議会」と協議されています。　いずれにせよ今年度内に再参集を呼び掛けることになります。

まだまだ皆様希望の継続活動決定は先になりそうです。最悪３月には「つくる会」は解散も視野に入れなければなりません。

８．編集後記

１７日の稲刈りの時には、子どもたちにちやほやされた合鴨が１８日から行方不明になりました。須賀河内川のそれらしいところや厚東川まで探しましたが、まったく姿が見えません。それかといって猛禽類に襲われて羽根が飛散している形跡もなくまったく無く不思議です。キツネに襲われそのまま山奥に持ち運ばれたものであろうとかと想像されます。

一度は“つるや食堂”裏でゆっくり過ごしていたものを、小学校児童や来訪者の要望にこたえ再び７月移り住んで、最近はよくなついていたのに本当に残念です。（　原田満洲夫　記　）

会報も９９号、会の活動も１０年を経過しようとしています。毎週土曜日に集まってビオトープの制作を行ったことが、つい、こないだのように思い出されます。

会員の顔ぶれも、少しずつ代わり、自らの体の動きにも月日の流れを感ぜずにはいられません。

たくさんのトンボが飛びかい、メダカが泳ぎ、カワセミも羽を休め、色とりどりの花や木の実が四季を楽しませてくれます。

今、会の存続にとって、とても大事な時期にきています。今後も活動が継続できるようにと、市や厚東川の水系協議会との話し合いが続けられています。

それぞれの立場もあり、なかなか難しい問題ではありますが、なんとか、会員の希望に添った形で活動が継続できることを望んでいます。　（　藤井　義晴　記　）